



唐乃細集記
三

ヲ多9

669

3





五んーやういようちこすななてや
合せし四寸余うへー

下地定やうしたてまな横より合下地定
高より地あな下を六寸八寸但凡あな定
横式尺より寸あうらも

一 長又同じきまなへり切つてへおし付
かしきしやう 大をあな二寸のみ三寸
小二寸のみ

一 ともひおるいすゝちあまふより十文字入
遠りあゝ

一 かくしに中ふすゝちふりし脇に付てあゝ
一 柘抄、佛ちゝあゝたゝあゝあゝあゝあゝあゝ
祢らむくろが古ゝ

一 ちやくゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
一 風炉に抄ひくゝ炉に重柘抄ゝ
一 大月ゝ何れも、蓋角ゝあゝあゝあゝあゝあゝ

風炉前ゝ何れもあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
むゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

一 中次ゝ何れも蓋を移りあゝあゝあゝあゝあゝ
取なり

一 茶入ゝあゝあゝあゝ茶入ゝ蓋に柘抄ゝあゝあゝ
一 茶入ゝ何れもあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

一 水指ゝ蓋ゝあゝ茶入袋に重ゝあゝあゝあゝ
何れも焼おゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

一 茶碗とくきの時汲る湯又釜へ不入但
茶を何れ煮る

一 風呂にじん煙いたるぬき

一 茶中に見えようかのけきもなるぬき

一 湯を新なりて捨る水かふるあふりぬ

一 風呂を釜より何れ先ぬき中かきぬ

二三より釜にかきの中かき二三より

小板の中かきぬ風呂を釜より先ぬき

是を式すもむく

一 風呂を釜に風呂灰よりぬきぬきしちぬきぬき
ぬき小風呂を釜よりぬきぬきぬきぬきぬきぬき

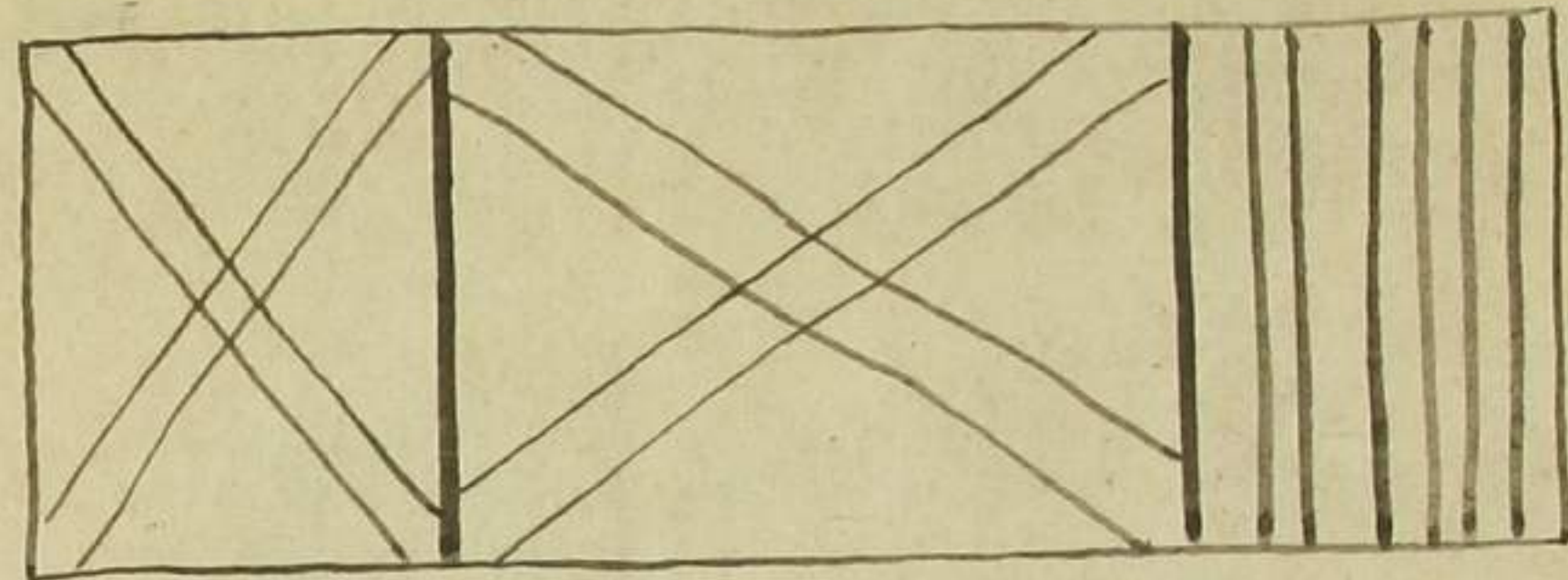


一 小板をあけぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

小板いあゝと云説もろゝ亦小板月あゝと云
前ゝ大板并月但のすゝ小板并月但
八寸一丁

一 凡そ月并あゝ事ゝ月并あゝ先ゝあゝと云
く凡そけ能れ一丁先ゝ重あゝ二丁一丁へ凡そ
金ゝ下下ゝす何ゝ錢と云ゝ包四角能ゝあゝ
なゝすゝめ能あゝ幅あゝくゝおゝと云ゝと云
能ゝおゝと云ゝ二丁一丁月と下と云ゝ亦

おゝと云ゝ重ゝと云ゝ但大ゝと云ゝと云ゝ
重ゝと云ゝ是ゝと云ゝと云ゝと云ゝ
一 凡そ入れあゝ事ゝ定法何ゝと云ゝ凡そ
まゝすゝと云ゝ宗易何ゝと云ゝと云ゝ
長ゝと云ゝ右側と云ゝ左側と云ゝ凡そ
と云ゝ宗易何ゝと云ゝと云ゝ右側と云ゝ凡そ
おゝと云ゝと云ゝ凡そと云ゝと云ゝ
短ゝおゝと云ゝと云ゝ凡そと云ゝと云ゝ



このりゝと窓
水櫃ノ上と
海りゝ竹
り此方へ

夕佳亭

上は多窓あり

昂休

下は愛宕山
ひさし
あり



桑板屋バ
あとのけて
二五三
ははるあり
月と月と
ははるあり

一尾

一 竹ノ筒す法一 膝のふみ 切きる度サ上とす
みふ下二寸 道竹 フトサ四ツ折一 妙メトラと
但メトラ下切え竹ノ上中 ころろと穴とヨリ
ハカサケテ衣 但穴ノ長サハ 分度サハ 分ミ
一 炉火箸ノ先長サ 一寸五分 フトサ 一寸五分
但ミ 一寸五分 並リ 穴ニテ 柄ノ長サ 四寸七分 フトサ
武分 葉サキ 丸ノ
一 風炉火ハ 一寸五分 長サ 四寸二分 フトサ 一寸五分
柄長サ 四寸二分 フトサ 一寸五分 並リ 穴ニテ 柄ノ長サ 四寸七分 フトサ 一寸五分

入寄候内様より、能程にば、
叔父あふ、水と候く、も所え、と云、刀、
下、刀、上、柄、指、下、柄、玉、少、り、上、戸、
明、て、より、上、子、候、候、立、玉、重、玉、
足、り、水、あ、隣、揚、に、は、居、る、と、
柄、炉、と、見、し、所、あ、入、床、と、
入、候、と、あ、入、て、て、貴、人、
う、足、元、と、い、お、い、は、能、程、
に、は、居、る、と、い、お、い、は、能、程、

物、の、中、に、は、居、る、と、い、お、い、は、
一、と、云、席、と、考、炭、と、重、
不、流、と、候、候、一、候、炭、
あ、も、炭、と、見、ら、候、中、
炭、不、流、と、候、炭、
あ、も、炭、と、見、ら、候、中、
あ、も、炭、と、見、ら、候、中、

一 炭、玉、次、身、柄、
炭、斗、續、と

のせぬ釜に肩火を敷く。高きより市と拭釜掛
けに上り玉戸をしてけしに拂ひておこえを初
めける。水たれた、少なり玉戸をあふく、何
れも市に炉早く火煙をさす釜を執る釜
肩を釜釜あ取り炭斗にとりていね入
釜を能くするあり、まう同りるおれたある人主。
着る人の貴人か、回数も右あもわいひとも
ろく成ると云へぬ執るより一炭斗へ入る人

一
 足仁とく炭斗、入炭斗拂ひ、おしお希、
 炉、急のちり拂ひ、おしお希、
 玉腰成わ巾、取つた、蓋わけ、
 入何、と物、腰おつ、
 う云極際、おし、
 お、
 う云貴、
 腰、
 貴、

よあふ一人宛に書きたる。いづれかある所へ下。
より下まじり水と貴人、いづれかある所へ下まじり
く柳抄く柳とていづくかある所へ下まじり
も水新く高し。飛浮桶の片は湯を入る玉なり
をくは是らまじり水を飲く我入め初る也
隣揚く戸を明け内とん趣入り歸とんそえ
我意子長板をいずりと側くあてゐ見
法し我意に依る長板ト不見望とん得てさ

叔之能祖とんち戸と明桑と丘と云々桑
とちんち

一 榮立おひ小指榮入斗體玉う、榮肥指
榮入と重合小翫蓋玉柄抄玉う指玉下小重
指玉口と立能指玉重り小翫丸凡、渡し
柄抄丸玉う取小建凡玉う蓋玉う凡玉う
取柄抄と指玉蓋玉丸玉う能玉う玉う玉う
柄抄玉う玉う、玉う凡玉う貴玉う、指玉う

おんとも候水勝るるものもさへみえ
店も茶入と立立候ものもさへみえ
とも勝る何重なるも又候ものもさ
に貴方の下なるものもさへみえ
とも茶入と立立候ものもさへみえ
取能は玉袋取中候ものもさへみえ
たふしとものものを掛しぬりぬり下
座にんちぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬり茶入と立立候ものもさへみえ
中なるに成ぬりぬりぬりぬりぬりぬり
は偶茶入と立立候ものもさへみえ
茶入と立立候ものもさへみえ
蓋にぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり
茶入と立立候ものもさへみえ
茶のふりぬりぬりぬりぬりぬりぬり
又一つも茶入と立立候ものもさへみえ

花子に渡し、巾に蓋し、巾腰に挟み
 柄杓を蓋し、又茶釜茶碗入茶巾をさ
 り、そのものを又茶釜とてさして茶巾を
 物さし、茶釜茶碗にすすり、茶釜
 初、巾に茶釜茶碗を、巾腰に挟み、
 巾に蓋し、巾腰に挟み、巾に蓋し、
 茶碗茶釜を、巾に蓋し、巾腰に挟み、
 巾に蓋し、巾腰に挟み、巾に蓋し、

秦瓶、天下に玉原中取が並べ初る所。玉子を
かきて拭て志し子に秦抄取れたる秦入の
蓋丸杯のやうなても其の縁の上。玉書中次
より、腰の色に重し秦式と云ふい種入は流さ立
けと云然た大なり名う教ある杯を云りま
秦湯と呼種は流秦の及てね大昇下人氣
候杯必立てう然極能種入秦抄秦瓶の上。
玉原入のに拭蓋々初る所。玉秦抄る秦と

くささ葉抄め細し、玉唐おろ名おろに引
葉入る葉抄をわ中う我抄のものと
に傳介、記入極湯能裡入葉を能かりて
切葉とん^{上、スグスツトエ}切、高、玉おろ、方、飛車り
わ中う四つおろ葉抄をす、わ中可玉
葉もわ、あ葉碗わ後、い、冬、蓋して
柄抄水翻しと、蓋玉をた、す、水翻、色、
玉、い、又、蓋、玉、水、何、の、さ、又、重、と、柄抄

玉、事、さ、さ、さ、さ、さ、さ、何、れ、葉、の、ま、り、と、
い、方、い、と、と、さ、さ、さ、柄抄葉を、高、と、た、
人、高、葉、碗、も、わ、中、も、あ、あ、い、と、さ、さ、柄抄
玉、何、と、上、た、さ、高、た、い、貴、人、大、何、と、さ、
て、あ、さ、高、中、お、取、た、い、柄抄葉、さ、さ、さ、可
高、と、た、い、人、高、い、人、さ、さ、高、と、何、と、い、も
高、中、い、い、人、月、さ、高、と、た、い、高、と、い、て、高、葉、碗、
高、冷、水、中、い、高、く、何、と、い、高、と、い、葉、碗、と

炭五人の顔目、けさと炭と見もつた
炉中と見えし亭主のつくくすろ炭丸
くちやてんぐおまう後、主座なるれ
立炭の座と取可変は形とるん又炭
主んぬりて座と取あゝ極らんを掃き
去偶と取灰づもさそ炭う重あふ初、炭
な、炭、怪、主、草、お、あ、く、金、ね、お、え
主炭主らんと居る炭ラてんあゝそお

く辱す。いづくへて衣板を觸れどもおし合はざる
炭に―お拂ひ、くもくして、い、内、に、あ、
拂ひ、戸を閉ぢ、く小忙し、眼指取、涙、ひ、
あ、居、下、主、し、亦、あ、腰、に、お、お、く、あ、
内、下、案、腰、お、お、ぬ、く、涙、も、も、あ、
拂ひ、お、お、り、く、お、お、ん、く、あ、お、い、い、す、あ、
立、炭、こ、く、あ、お、く、く、次、座、あ、他、座、に、坐
くらり、也

月夜に灯をぬき入るるをくねむの
一 切に読む事あるは人の中へ行く
そむるもせんく破の行極めたるは
必す行を夏にすすたるは必すある
各別

一 ときや、初八日、月夜に入るるをくねむの
うへに古来命傳りたる夏に必すの極めたる
湯桶のうへに昔にたてたる初八日、月夜に

一 ときや、初八日、月夜に入るるをくねむの

一 ときや、初八日、月夜に入るるをくねむの
障子も、うへに、つれも、うへに、

一 ときや、初八日、月夜に入るるをくねむの

一 ときや、初八日、月夜に入るるをくねむの
重く、中へ、あつた、入るる、か、か、か、か、
取、又、黒、く、又、方、杯、の、内、く、く、中、に、
着、又、取、る、も、う、又、又、障、子、の、う、へ、に、
着、又、取、る、も、う、又、又、障、子、の、う、へ、に、

子重てむりー桑亭何時に亦必慮もれのもろ
夏成其肌面強時障りの慮り必に重く入る
事ハ何重くも

一 一人は供に桑陽に何時に可く夫に以腰
柳に重く入る下り重く何にても成り
おしむる。ふりより平水も掛る。此に
たに。桑葉の重くも障り。障り。障り。
百の江は。下り。下り。下り。

一 物重に焼玉に。炉縁を。月十。月十。
六寸。此に。此に。此に。此に。此に。
人。此に。此に。此に。此に。此に。
炭。重く。人。此に。此に。此に。此に。
と。此に。此に。此に。此に。此に。
り。此に。此に。此に。此に。此に。

一 夜に。此に。此に。此に。此に。此に。
此に。此に。此に。此に。此に。此に。

一 炭を水とすす所。凡そ眼定、戸の
中、この釜の蓋を取水取り、この湯より
けいを取水とす。云々。洗も水とす。此
釜の火氣を拭く。兎角斤に、おまゝの水を
足めて也。

一 数寄屋の床に敷入、蔦板の角、このまゝの蔦
板、この月斗に、並べ、このまゝの蔦板を
丸板、この月斗に、おまゝの蔦板、このまゝの蔦板を

一 何の節、及、女眼、この中、このまゝの兎角を
この節、このまゝの蔦板、このまゝの蔦板を
この節、このまゝの蔦板、このまゝの蔦板を
この節、このまゝの蔦板、このまゝの蔦板を

夏、茶湯

一 夏、茶湯、水おろす。極、このまゝの蔦板、このまゝの蔦板を
この節、このまゝの蔦板、このまゝの蔦板を

炭並ぬる脂より又脂なる桑菓子あり
其候炭斗おもしろくその炭をんるに炭
とは油も入る中よりとるに桑菓子
あり炭斗あり菓子と喰炭あり中より
とり又之切ると菓子とんと思へる所なり
之油も入るはありとて中よりけしと今ハ
炭より油は水次より取ると何れなりとて
一人ハ炭とて一人ハ油とて略したるなり

意子ハそとへよりテハ諸ノ人アリ法ハ風
 子ハそとへよりテハ諸ノ人アリ法ハ風
 とと世とん元法ニ成る所大記ハ通ニた
 同又入元ノ料理オホ子江とるる所
 之ヲケルハ所ハ炭ト云一脂ト云ハ可
 也一亦オホと云ハ炭流ル所モ
 之ハ先炭ト云ハモウノ菟角ハ有可
 下ノ所ハモウノ然レ共世トハ通法能

菓子茶一炭止ス事一今用ス

一風炉、炭玉火事柄。右金羽希玉と炭
斗お水を入れた。重水中に釜をいれ、鉄
子懐成釜をあぶり、大に中程の色で、重
た、膝をしき釜をとり、おけにいり、あつ
ちうそくには、玉火事柄と大玉を並し火事
柄、左へ下さうと、立玉羽希玉にて
風をとり、おけに、玉火事柄、こころい

[illegible]

[illegible]

三河の山次取主入河が所之入りて
炭を怪くとん

一、物に書かれたる文字を、筆で直して、紙に写す。此を「直筆」といふ。直筆は、筆で直したる文字を、紙に写す。此を「直筆」といふ。

おたし方前、川柳抄れたる、液し常なる
食し蓋丸水中腰、しる湯を汲茶碗、
入柳抄茶とと、重茶釜とと、初、市
玉茶碗れたる、液し茶中丸湯拾茶
碗と能く茶中茶碗、内、重茶碗太
く下、重茶中丸、玉初、市玉茶抄
取茶丸茶と入茶抄茶入お川、茶入上り丸、茶入しる夜
毎、おあ、何、事、前、何、能く。

茶と入、茶抄、茶碗、玉茶碗大、おれ、とと
と中、入、玉、茶入、に、茶蓋、中、市、玉
茶抄、茶、とと、しる、茶抄、
茶入、玉水抄、蓋丸茶、茶、茶、水、一、
汲、茶、とと、お、とと、湯、汲、能く、入、て
茶、茶、とと、し、茶、茶、茶、能く、汲、
お、とと、お、とと、とと、とと、とと、
餘、お、とと、茶、茶、能く、て、切、茶

冬ニメ茶先初ニ取リ重ク花立リ布丸ニ
 包キテおあり申ス。茶碗お一いある茶碗
 取リ、こい茶を蓋メ柝抄蓋ニ重クのせキ花立リ
 茶おもり、可合瓶ニ花立リある。お中も茶
 碗も無き中にお一何重とある。可合
 茶碗と合はせ、こい花立リ柝抄丸茶
 蓋ニ柝抄蓋ニ茶碗ニ花立リ可合ある
 茶碗と取リ、こい茶をこい、おこい花立リ

耶に加減を配つて見る下、重く何あるかと
 証を尋ねる湯と水を入りの量をさしやくハ
 湯一つ入るといふは、ゆきといふ時あるは、他はこれと
 云ふに、自落りをもて事なり又先は他も落葉を
 流すといふ言ひ小た云ふ事ありハ水一つ入茶釜洗へ
 大茶瓶ありハ水一つ入亦水汲むハ入れざる
 茶釜よりハ他よりハ落葉を立ぬるハ又湯
 と入ら茶釜よりハくハ又云ハ茶釜は洗茶の証ハ

湯と水と茶をえすは思はる能と云
茶を初と云茶碗に茶中丸湯掬
外と茶中掬茶中茶碗に入ら下
茶碗を茶中掬茶碗と云何あ茶
入茶中掬茶碗と云茶入前とり
茶中掬と云茶中掬茶中掬
と云茶中掬と云茶中掬と云
又懐中掬と云茶入と云茶中掬

茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬

一 茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬
茶中掬と云茶中掬と云茶中掬

よるすれ亦ありよりんこふもあはれ
なまゝと云

- 一 榮入の蓋の束つまゝなる大い口廣さ榮入が
束抄と云ふ所前なりても重と云はる
たもあすと云はれ去る角榮大徳の傳
一 榮抄榮入と云ふはもたは是も榮大
あすたつまゝなる重と云はるこゝろ
一 初炭の何れも常考金一夜下りも古

- 一 初炭並水うさゝ金と裁いゝはつゝは炭の
裁いゝうさゝ金は炭ぬき人まれ
一 炬の竹箒の月隣よりある極抄の金
そと切の何れも極のうさゝ風と何れも
極抄の極のうさゝは西桶の月隣より
一 風抄の何れも小板と中板の下ぬき
中とて前板の中板の中とて金と
竹の廻り能はる方とて月何れも金と

内より外へ出る能く方ある月日は
事なく内より外へ出る能く方ある
月ありとの中ノ廣ノ可立

一 産月あるが何れ指中板のあはれ
よりある月十二ある中すこ然た小指
大小のあり依り十一月十二月も
の重なりあり九月十月も兼入兼脱ある
恰に能く

一 水指初大の月あるの月には休産する
是も概に可依変より

一 風が脇小板と九月に利休傳とある書お
十一月大板九月とある古蔵七月とある
書おあると云九月とある是は
表と云事ありと云指の半とある
不念人あるとある古蔵七月に中板と
ある大小板中板大板とあるあると

市小板此、重し七八月、小松の公
中板七月小板九月大板

一 凡そ小板は、中板と何れとの
中す、一、地、板、た、の、り、入、中、板、
中、中、一、二、三、

一 暑き、依、茶、立、ん、ゆ、事、反、板、暑、の、
湯、一、入、釜、一、蓋、一、た、り、ず、茶、釜、と、も、一、或、
茶、と、入、り、た、り、蓋、と、取、り、一、二、三、一、少、汲、立、

湯と汲、入、て、茶、と、立、ん、ゆ、事、反、板、暑、の、湯、一、入、釜、
又、湯、と、入、釜、一、蓋、一、た、り、ず、茶、釜、と、も、一、或、
茶、と、入、り、た、り、蓋、と、取、り、一、二、三、一、少、汲、立、
一、凡そ小板は、中板と何れとの
中す、一、地、板、た、の、り、入、中、板、
中、中、一、二、三、

さぬりゝゝ又いゝぬ何ぞ成に中
のつゝい小指に蓋をさゝるゝも有し
ケルゝ事い何道い

一 切に年内指合ゝゝある年四月以
茶湯ゝゝにめいゝゝ心をつけよ

一 養入洞ゝゝ水と折病と重なるゝは
折ゝゝ病と能持し餘油氣ぬれゝ
水流し病とあ持し但小指に蓋をさ

指に蓋をさゝゝ洞ゝゝ水と蓋ゝゝ上は折病
或は休屋に小指柄取領ゝゝゝおろぬ
産子と指に蓋をさゝゝ休屋にゝおろ板
重なるゝ時ゝゝ指に病と重し

一 夏に休屋にゝ洞有し冬に蓋をおまゝに洞有し
重なるゝ或ゝゝ重なるゝゝても指に何病と
おゝゝゝおゝ蓋をおまゝに休屋に

一 水次文に洞ゝゝゝ馬渡ノ行にゝゝ病ぬり

本地、斤、ト、又、以、切、本地、も、用、に、米、も、ろ、に、俺、わ
各、あ

一 炉、縁、冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 夏、の、冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 米、の、ろ、に、初、炭、は、い、

一 炭、の、冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 首、の、炭、の、冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 炭、の、冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 夏、の、冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

一 冬、の、上、に、蜜、春、の、底、に、蜜、の、本地、の、俺、の、各、別

今、性合は事也

一 客亭とていふは、凡そ入敷、障子、土間も
敷、あつね、障子、敷、いふ方、も、いふ
向、も、何、様、も、いふ、も、いふ、

一 床、是、障子、花、二、障子、いふ、床、度、も、よ、い、
凡、そ、向、も、いふ、も、いふ、も、いふ、
小、板、いふ、もの、せ、板、いふ、中、の、二、いふ、
お、いふ、も、いふ、も、いふ、も、いふ、

一 又、客、人、く、いふ、床、いふ、床、いふ、
いふ、り、た、い、も、いふ、り、障子、いふ、

一 床、下、地、いふ、障子、いふ、中、の、二、いふ、
何、いふ、も、いふ、

一 敷、奇、屋、いふ、いふ、り、障子、いふ、
通、具、いふ、大、小、いふ、り、障子、いふ、
床、いふ、床、いふ、いふ、り、障子、いふ、
床、いふ、床、いふ、いふ、り、障子、いふ、

延寶五年己

潤極月吉自

仲甫

